

全国財務局長会議資料

I. 中国地方の経済構造と産業構造

II. 最近の中国財務局管内の経済情勢



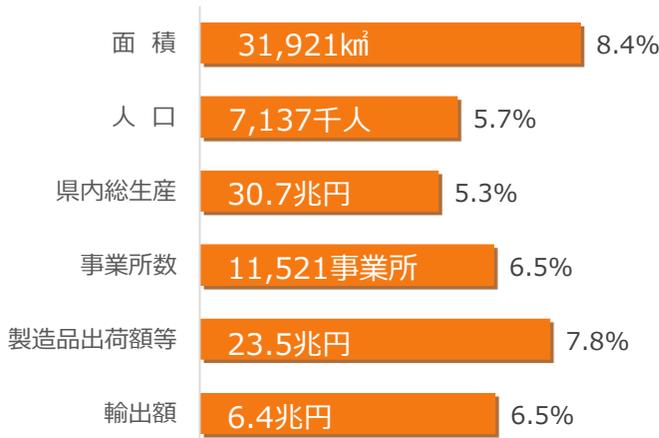
令和5年7月26日
中国財務局

【お問い合わせ先】
財務省中国財務局経済調査課
電話 (082)221-9221

I. 中国地方の経済構造と産業構造

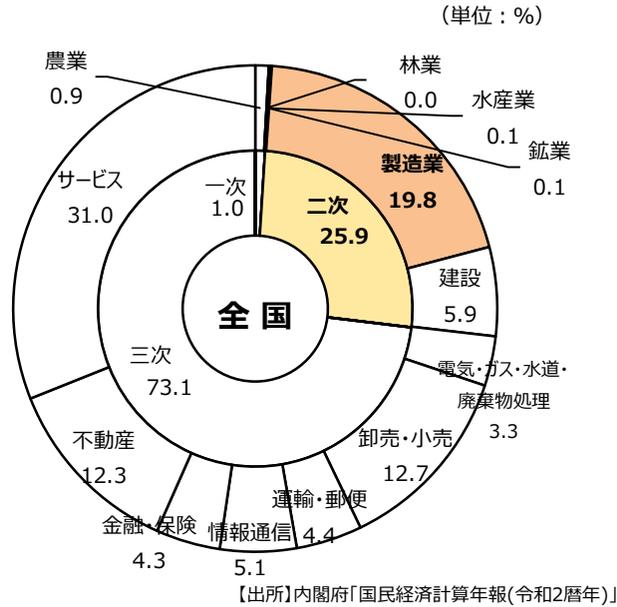
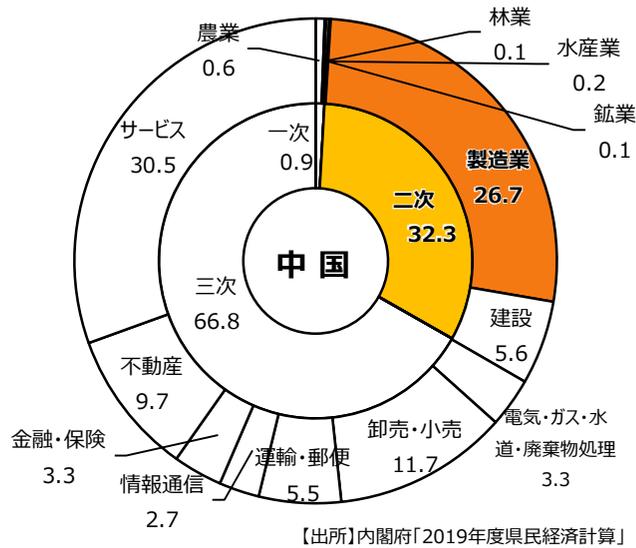
○中国地方は、人口や県内総生産などの全国ウェイトが5%台である一方、製造品出荷額は8%近くを占めており、ものづくりの拠点となっている。
 ○中国地方の経済構造を見ると、全国に比して製造業のウェイトが高い。地域別に見ると、山陽地方においては重化学工業メーカーの製造拠点が集積していることなどを背景に製造業のウェイトが高く、山陰地方においては高齢化が進む中で保健衛生・社会事業（病院・介護施設等）のウェイトが高い。

●中国地方の経済規模（全国ウェイト）

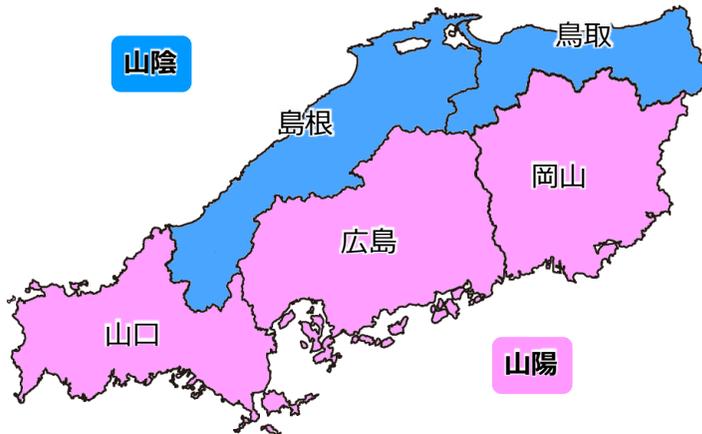


【出所】国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「人口推計」「経済センサス」、内閣府「2019年度県民経済計算」、財務省「貿易統計」

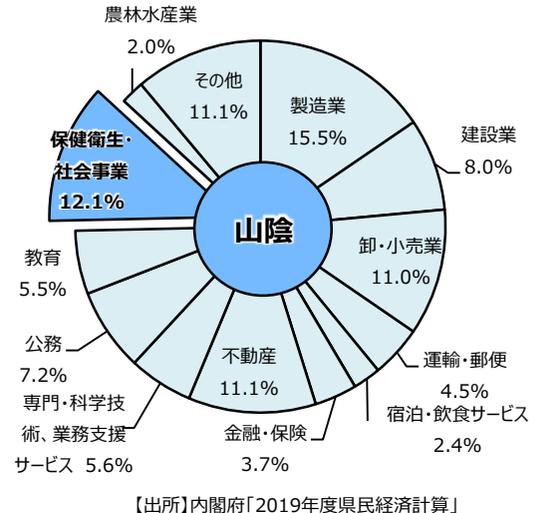
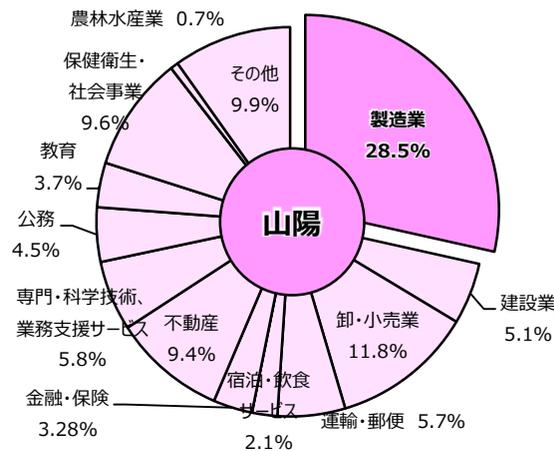
●経済構造（中国地方）



中国地方（山陽と山陰）



●経済構造（地域別）

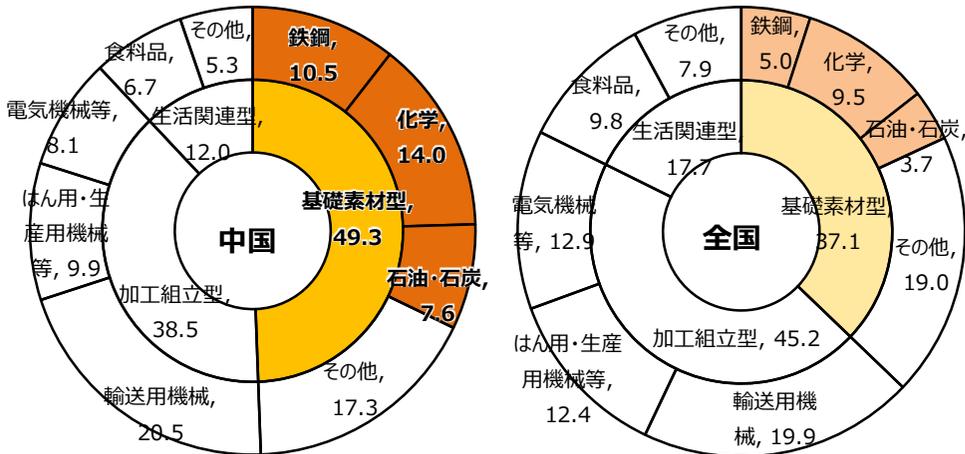


I. 中国地方の経済構造と産業構造

- 中国地方の製造品出荷額等を見ると、基礎素材型産業の割合が約50%と高く、全国（37%）を大きく上回る。
- 地域別に特化係数を見ると、山陽地方では、石油・石炭、鉄鋼、化学の特化係数が高く、山陰地方では電気機械等の特化係数が高いなど、山陽と山陰で製造品の構成比が大きく異なるのも中国地方の特徴。
- カーボンニュートラルの観点から見ると、特に山陽地域の瀬戸内沿岸部において重化学工業が発展していることを背景に、中国地方の人口1人当たりCO2排出量は15.1トンと全国平均（7.5トン）を大きく上回る。
- インバウンドの観点から見ると、特に広島県においては欧米からの観光客の割合が全国に比して非常に高い。

● 産業構造（製造品出荷額）

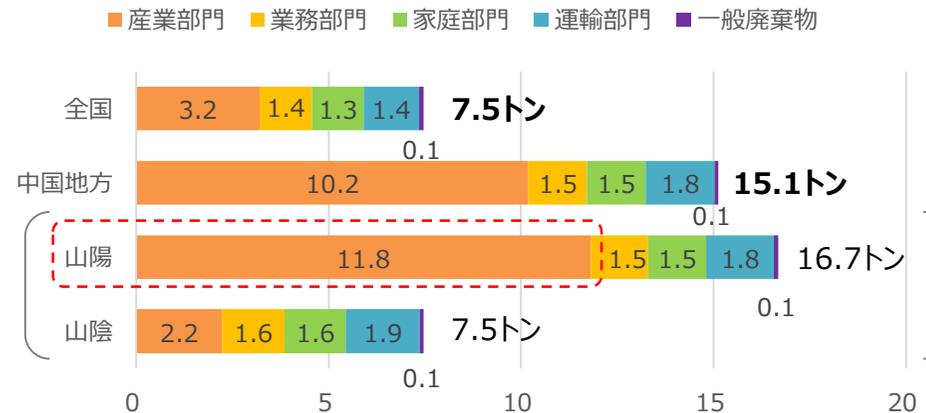
（単位：％）



【出所】令和3年経済センサス

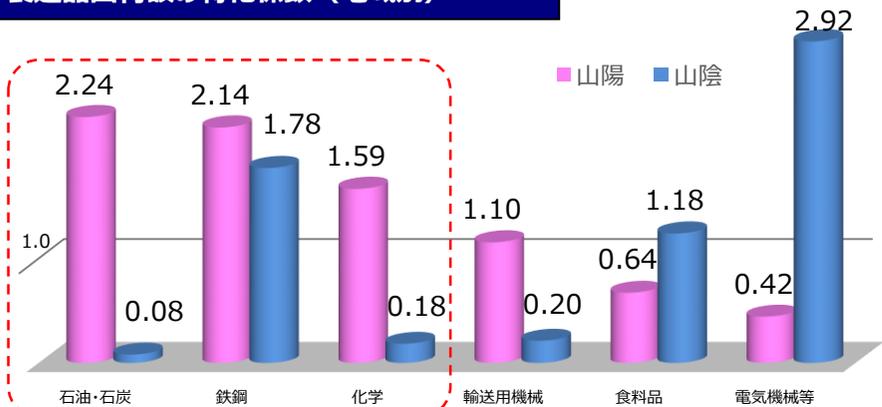
● 人口1人当たりCO2排出量(2020年度)

（単位：トン）



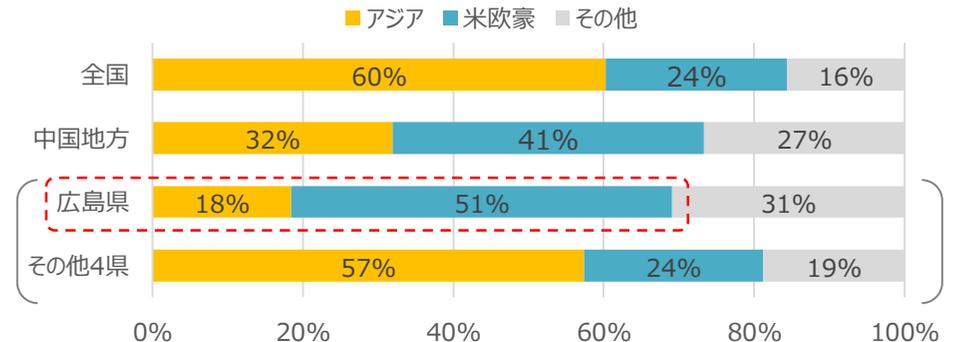
【出所】環境省「部門別CO2排出量の現況推計（2020年度）」、総務省「人口推計」

● 製造品出荷額の特化係数（地域別）



【出所】令和3年経済センサス

● 外国人宿泊者の国籍別割合



【出所】観光庁「宿泊旅行統計調査」令和5年1~4月の外国人延べ宿泊者数

Ⅱ. 最近の中国財務局管内の経済情勢

	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較	総括判断の要点
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある		個人消費は、外出関連消費が好調なことや、インバウンドの回復により緩やかに回復しつつある。生産活動は、海外向けの需要回復に遅れがみられることなどから足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。

〔先行き〕

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は減益見込み	5年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超に転じる	「上昇・下降」が拮抗している	
住宅建設	前年を下回る	前年を下回る	
輸出	前年を上回る	前年を上回る	

※1. 5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

※2. 各項目の詳細については、「全国財務局管内経済情勢報告概要」を参照。